

令和5年度 第2回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時： 令和6年2月13日（火） 15時～16時30分

開催場所： 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者： 我孫子市教育委員会教育長 丸 智彦

我孫子市教育委員会教育総務部長 山田 和夫

我孫子市小中一貫教育推進委員9名（3名欠席）

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局4名

傍聴人： 無し

1 丸 智彦 教育長 挨拶

新型コロナウイルスが感染症法の位置付けにおいて2類から5類に変わり、学校は気持的にも楽になりました。行事は精選されたものが実施されるようになってきています。

残念なことが2つあります。1つは不登校です。中学校は不登校の数が減りましたが、小学校はかなり増えました。「いじめによる不登校」「教職員の言動による不登校」「授業についていけない不登校」の3つが原因となっているものについては、減らしていけるよう、学校へお願いしています。

もう1つはいじめの重大事態です。今年度は3件ありました。いじめは起こります。その後の対応が大切です。組織的な対応ができるよう努めていきたいと思えます。

また、児童生徒は学校の多くの時間「授業」を受けて過ごしています。授業の時間が楽しくない、つまらないということは駄目だと思います。「授業で勝負」できるようにしていきたいと思えます。

平成25年度から始まった小中一貫教育も11年、令和元年度の本格実施となってから5年が経ち、我孫子市の売りとなっています。令和4年度からはコミュニティ・スクールが始まり、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に進めていこうと取り組んでいるところです。地域学校協働活動の推進員さん、学校運営協議会の委員さんはよく取り組んでくれています。学校のほうがまだまだ追いついていないような現状です。引き続き学校の意識改革を進め、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と地域学校協働本部の両輪がしっかりと回っていくようにしていきたいと思っています。ご協力をお願いします。

2 委員長 挨拶

教育長のお話を聞き、気を引き締めて取り組んでいきたいと思えました。不登校の避けたい3つの原因の中に「教職員の言動による不登校」とありました。

NHKの「支配される教室」で差別体験学習を取り上げていただきました。この差別体験学習は我孫子市教育委員会の協力のおかげで始まったものです。そのNHKの放送を観た方から「ぜひ、この映像を教職員や保護者に見せたい」といった連絡がたくさん

きました。教員の無意識な言動がどのような影響を与えているのか、先生方にはその放送を観て考え直して欲しいと思います。

いじめは子どもたちの間で起こりますが、いじめの土壌となるのは学級経営であったり学校経営であったりします。こうした部分を解決するためには、先生、保護者、教育委員会の風通しをよくする必要があります。組織的な対応を、とありますが、これが難しい。マニュアルからこぼれ落ちるところこそ、大切だと思います。

3 議事

(1) 今年度の我孫子市小中一貫教育推進状況について

【事務局より説明】

- ①東京理科大学との連携について
- ②小中一貫教育の周知について
- ③「Abi-ふるさと」および「Abi-キャリア」の検証授業の取組について
- ④小中一貫の日について

【各委員より】

- ・布佐小学校を参観しました。どうしたら地域の人と町おこしができるのかを考える授業でした。よく吟味され、準備された授業で、担任の先生の工夫を感じました。児童が大変協力していました。地域の方と児童がよく関わりを持っていました。楽しくて、よくわかる授業の重要さを感じました。こうして培った力が、中学校での行動力につながると思います。
- ・白山中学校の職業人講話を聴く会に参加しました。いろいろな職種があって驚きました。意見交換が活発でした。子どもたちの将来につながる学習だと感じました。授業後、校長先生や参観された方と話す機会があり、小中一貫教育の視点から、小学校では地域、中学校では企業と協力してキャリア教育に取り組み、より将来に向けてよい学びになるのではないかという話が出ていました。今年1年いろいろな場面で我孫子市の小中一貫教育に関する記事に触れる機会があり、様々な取組が実施されていることを感じました。
- ・白山中学校の職業人講話を聴く会に参加しました。これまでは、小学校と中学校とで我孫子や身近なところからという同じ切り口となっていました。それが変わったと感じました。小学校で地域、中学校で企業へと視野を広げていったことが良かったです。大人も大変参考になるお話でした。今回の職業人は、地域新聞社からの紹介ということでしたが、地域新聞社も地域の資源です。ぜひ今後も、協力していただければと思います。
- ・布佐小学校の授業を参観しました。3年生が「布佐の良いところすごろく」を作成していました。自分で調べることで、また、友達と関わることで学びが深まっていることを感じました。
- ・我孫子第一小学校を参観しました。パネルディスカッションをとおして、我孫子の課題を改善するためのプランを紹介し合う、よく考えられた授業でした。我孫子第一小学校の学区地域だけでなく、我孫子市全体を考えてプランを考えていました。地域性や住人の立場

を考えた上での様々なアイデアが出され、小学生の夢いっぱいのプランでした。中学校でより具体的なプランが出せたりすると面白いと思います。

- ・白山中学校の職業人講話を聴く会に参加しました。内容については、先の委員の方がおっしゃったとおりです。我孫子中学校区でも小学校3校が協力して取り組めたらいいと思いました。
- ・今まで小中一貫教育は市の「Abi☆小中一貫カリキュラム」をやればよいと、形から考えていましたが、少しずつ「各校の特色」を意識した学校が増えたと思います。今年の久寺家中学校区は福祉教育をカリキュラムに位置付けて実践してきました。幼保小連携も、小中一貫もみんなでやっていく、地域で子どもたちを育てるということが形になってきたと思います。今後は、地域の問題について学校が理解しないといけないと思いました。
- ・我孫子第二小学校の職業人講話には、保護者の方が来て来てくれています。中学校段階になると、社会に出ることはより近い未来として考えていく必要があると思っています。
- ・1月30日に我孫子中学校区で小中一貫の日を実施しました。我孫子中に登校する段階からわくわくした様子が見られ、実際に中学生の姿を見て期待が膨らみ中学校生活への見通しが立ってよかったです。
- ・Abi☆小中一貫カリキュラムの検証授業については、教職員の相互参観ができてよかったです。子どもたちの姿や授業のとらえ方など、気づきが多かったです。
- ・本校においても小中一貫教育に力を入れていますが、学校アンケートの結果では、浸透はまだまだです。教職員、児童、保護者と温度差がありますが、みんなを巻き込んで頑張っていきたいと思います。
- ・地域新聞社のおかげで、たくさんの職種の企業が集まってくれました。職業人を担当学年の教職員が集めるのは本当に大変なことです。今回のような取組を形にしていけたらと思います。企業の方からの「社会貢献のために働く」という言葉に心を打たれた生徒も多かったと思います。
- ・せっかく授業を展開して下さっても、教職員が見に行けませんでした。教務主任が初めて小学校の授業を見て、総合的な学習の時間を中心に深く探究する児童の姿に「小学校ってすごい！」と感想を持っていました。そして、中学校区として小中3校で進めていかななくてはならないと気付いたことが成果です。他の職員にまだまだ伝えられていないので、学区内でもっと授業参観ができるようにしたいと思います。
- ・我孫子第一小学校の授業を参観させていただきました。すごく良い経験をさせていただきました。パネルディスカッションでの子どもの発想は凄いいました。
- ・我孫子市の小中一貫教育は「地域性を生かす」という第2フェーズに入りました。
- ・キャリア教育の小中のステップの中に、具体的にどのようにしてその職に就くのかのプロセスを職業人から学ぶ機会を入れても良いのではないかと思います。
- ・幼稚園や保育園で年長、園の最高学年であったのに、小学校に入って一番下の学年になり、いろいろなことができないものとして扱われることが多くあります。そういった扱いにならないよう、繋いでいくということが大切です。
- ・中学校の先生は小学校の先生の授業を知らない、その逆もそうだと思います。前段階の学

校でできていたことを生かせるように進学することが大切です。ぜひつなげてあげてください。

(2) Abi☆小中一貫カリキュラムの検証結果について

【事務局より】

- ①Abi☆小中一貫カリキュラムの検証結果について
- ②Abi-ふるさとについて
- ③Abi-キャリアについて

(3) 今後の我孫子市小中一貫教育推進の見通し

【事務局より】

- ①令和6年度の予定について
 - ・中学校区ごと特色ある「中区カリキュラム」作成
 - ・検証シートを改善して引き続きの検証
 - ・学校評価への位置づけ3年目

【質疑応答】

- ・自分の学校がなぜ「ふるさと」に寄せるのか、なぜ「キャリア」に寄せるのかなど、その背景や根拠がわかるよう、説明できるように進めていただきたいと思います。そうすることにより、他の中学校区の先生方が、自分の中学校区の特徴や課題を考える参考にできると思います。(委員長)
- ・高齢者疑似体験のととても良い取り組みがありました。社会福祉協議会と児童生徒に、保護者も交えて活動するというものです。(委員)
- ➡保護者を交える活動はととても良い取り組みです。家庭での話題も広がります。(委員長)
- ・グランドデザイン作成は大変そうに感じます。実際の授業の様子を見合ったりしないと、作成ができないのではないのでしょうか。(委員)
- ・グランドデザインはどのように作っているのでしょうか。(委員長)
- ➡教務主任等が集まり、地域の課題を持ち寄って作成しました。(委員)
- ・住んでいる市では小中一貫教育に取り組んでいません。他市の情報も知りたい、勉強したいと思います。(委員)
- ➡小中一貫教育立ち上げの時は見学に行きました。第2フェーズに入ったところで、見学をするのは良いと思います。(委員長)
- ・幼保小は連携だより「ステップ」があります。小中連携についてはいかがでしょうか。(委員)
- ➡小中一貫だより「繋」や校長会議資料等で広めています。(事務局)
- ➡資料を全て配付しても見るのは大変ですので、ポイントを伝えることが大切です。もっと知りたいとなったところで資料を読んでもいけるような形が良いと思います。(委員長)

4 その他・連絡

【事務局より】

今年度の小中一貫教育推進委員会におきまして、皆様の委員任期は、令和6年3月までとなっております。1年間ご協力ありがとうございました。次年度につきましては、また年度が明けてからお願いすることもあるかと思えます。その折には、どうぞよろしく願いいたします。なお、令和6年度第1回小中一貫教育推進委員会は7月8日（月）を予定しております。